

国際ロータリー第2730地区

高鍋ロータリークラブ 会報



会長 坂田 師通
副会長 青木 善明
幹事 橋口 清和
例会日 毎週木曜日 12:30~13:30
例会場 ホテル泉屋 2F
事務所 宮崎県児湯郡高鍋町大字北高鍋 1368-4
ホテル泉屋内 TEL/FAX 0983-21-1636

第2039回 平成30年10月4日プログラム

- | | |
|---------------|------------|
| 1. 点 鐘 | 7. BOX披露 |
| 2. ロータリーソング | 8. 委員会報告 |
| それこそロータリー | 9. 会員卓話 |
| 3. ビジター・ゲスト紹介 | 10. 次週例会案内 |
| 4. 会長の時間 | 11. 点 鐘 |
| 5. 幹事報告 | 12. |
| 6. 出席報告 | |

高鍋ロータリークラブテーマ

『ロータリーの心を地域の人に届けよう』

第2730地区ガバナー 川原 篤雄

中部分区ガバナー補佐 安田 秀一

RI テーマ 『インスピレーションになろう』

地区テーマ 『プラスワンの考動を』

10月の月間テーマ

経済と地域社会の発展月間・米山月間

本日の例会案内

*夜間例会 & 観月会

18:00~ 於;ゲシュマック

次週例会案内;10月11日(2040回)

*月初めのセレモニー 雑誌紹介

*女川町長講演会説明会

*米山ランチ *血圧測定 *理事会

第2038日回 例会内容 (9/27)

☆会長の時間

会長 坂田 師通 君

今月は基本的教育と識字率向上月間ですので、ベルンハルト・シュリンク氏の「朗読者」という小説についてお話させていただきます。平成12年に日本では松永美穂氏が新潮クレスト・ブックとして翻訳され、私自身はその時に一度読んでおります。作者のベルンハルト・シュリンク



は、ベルリンのフンボルト大学の教授であり、法律学者として有名な方だそうです。現在、この「朗読者」はドイツでは学校の教材として使われております。ドイツは、第二次世界大戦後、日本と違って近隣諸国との清算を上手く行った感じがするのですが、この本には「見て見ぬふり」も犯罪であるとする裁判の部分があり、別の面で興味深いところがあります。

小説の内容ですが、15歳の少年ミヒヤエルは、ある日下校の途中で気分が悪くなり、年上のハンナに助けを求めます。その後黄痘が出て治った後、5か月後にハンナにお礼に行きますが、その時偶然、ハンナの着替えを見つけてしまいます。その後、ハンナのことが忘れられずハンナ

を訪ねてしまいます。そして20歳くらい年上のハンナと肉体関係ができてしまうのですが、セックスの前に必ず教科書をミヒヤエルが朗読することが2人の習慣になります。復活祭の休暇で2人は泊りがけの旅行に行くのですが、ミヒヤエルは朝食を取りに出かけるため、メモを書いてハンナを残して部屋を出ます。しかし、戻ってくるとハンナはミヒヤエルが黙って出かけたと言って、すごい勢いで怒り、またメモもありませんでした。

その後、しばらく2人の情事は続くのですが、ある時ハンナはミヒヤエルの前から忽然と姿を消します。ハンナの失踪から7年が経過してミヒヤエルは法学部の学生になり、ゼミの一環で裁判の見学に行くこととなりますが、被告席にいるハンナを見つけてしまいます。ハンナは過去にナチスの収容所の看守をしていたのです。彼女は、2つの罪に問われており、1つはアウシュビッツの収容所ユダヤ人を送った罪で、もう一つは囚人達が宿泊していた教会が空襲された時に燃えさかる教会に囚人達を閉じ込めたまま見殺しにした罪でした。

裁判の中で囚人達の中から体力の衰えた女の子を選んで働かなくても良いように計らい、夜になると自室に呼び出して本を朗読させていたことを問われ、性的虐待をしたのではないかと疑われています(実際は、心から助けようとした)。また、教会がけ焼け落ちた時、看守はそこに居なかったとしているが、報告書ではその場に居たことになっており、その報告書を書いたのはハンナだ

とされていたことが判明しました。しかし、ハンナは文盲だと言うことにミヒヤエルは気付きます。旅行中の読み書きはすべて自分がしていたこと、手紙を無視されたことなどを思い出したのです。けれども、裁判はハンナに不利に進行して行き、ミヒヤエルは何もすることが出来ず、判決の日を迎え、終身刑を言い渡されます。

それから、月日は流れ、ミヒヤエルはゲルトルートという女学生と結婚して子供もできるのですが、すぐに離婚してしまいます。独りになったミヒヤエルは、ハンナが忘れ難い女性であり、自分の人生において、とても大きな存在であったことを再び思い出します。ミヒヤエルは、カセットテープに朗読を吹き込んで刑務所のハンナに送り始めます。カセットテープを送り始めてから4年後、ハンナから手紙が届くようになります。刑務所で字を覚えたのでした。

服役から18年目に刑務所の女所長からハンナの恩赦を願い出るので、身元引受人をして欲しいという依頼が届きます。ミヒヤエルは、身元引受人となります。出所の前日は、ハンナと電話で話をしますが、ハンナの声が若い時と変わっていないと感じます。ハンナは出所の朝自殺してしまいます。女所長から、ハンナがミヒヤエルの手紙をテープではなく、心待ちにしていたと言う話を聞きます。ハンナの残した手紙には、自分のお金を生き残った犠牲者に届けてほしいという依頼が書かれておりました。ミヒヤエルは、犠牲者のユダヤ人に会い、ハンナのお金をユダヤ人識字連盟に寄付することにしました。後日、識字連盟からハンナ宛に感謝の手紙が届き、その手紙を持って、ハンナの墓参りをしたのでした。

少しロマンチックではありますが、哀しい物語です。映画化もされているそうです。現在、この本は新潮文庫からも出版されております。

然ながら言葉ではお礼を言ったことはありませんが、有難く思っています。その仏壇の前に5年前に亡くなった母の小さな写真が置いてあります。年老いて施設でお世話になったとき、撮ってもらった最後の微笑んだ顔写真です。68歳になった長男の私は、何を語り、何をつぶやき、母の姿を思い浮かべているのでしょうか・・・私は、姉・弟の三人兄弟で、両親が営む豆腐屋の家庭で育ちました。幼い頃、朝早くから一生懸命に働く親の姿を見ながら成長したように思います。家族団らんの、ゆったりとした恵まれた家庭環境はなく、中・高時代の弁当は、台所に母が作ってくれていた玉子焼きなどを、自分で入れて登校したものです。「子は親の後姿を見て育つ」と言う言葉がありますが、働いて働いて私たちを育ててくれました。姉は奨学金で大学に行き教師になり、職場結婚、その連れ合いの義理の兄は今年の春、教育叙勲を受けました。私は高鍋町役場へ就職、弟は高鍋信用金庫へ入庫、そして退職後の現在は石井十次顕彰会の事務局長として働かせていただいております。私は「行政経験40年を高鍋町のために役立ちたい」と議員を志し、8年前から議員として仕事をさせていただいております。私の過去は、裕福で豊かな生活ではなく、苦しいときも両親の必死に働く姿を見ながら、その中でも素朴で控えめな母の愛情があったことを決して忘れません。そんな生活の中から、私は高校のとき母の言葉から悟ったことは、長い人生の中には山あり谷あり、苦しいときがあれば、楽なときも必ず来ると言うことでした。雨の日も風の日もバイクの荷台に豆腐を積んで配達しながら店に卸していく強い父の姿、ここにいらっしゃる松尾さんの実家のお店にも、永年大変お世話になったことを記憶しております。環境が人をつくり、人が環境をつくる・・・私たち兄弟三人が、両親の必死に働く姿を見ながら学んだものは、小さな家族の絆の深さでした。それは、障子の穴の透き間風が吹いても、親子の愛情の温かいぬくもりだったように思います。どんな人も平等である精神は、この豆腐屋の生活の中で、生まれ身に付きました。両親を亡くし、自分も年老いていく日々の中で、仏壇の母に、手を合わせながら「苦勞したよね、おふくろ！」そうつぶやいているように思います。妻は嫁と姑で同居しながら、口には出しませんでした。きつと心の葛藤もあったに違いありません。共働きで介護に追われながらも、頑張っけて働いてきました。

縁とは不思議なもので、坂田先生の病院でお父様の院長先生時代から20年近く働かせていただき、本当にお世話になり有り難うございました。院長先生とは山野草等、趣味の面でも相性が合い、珍しい苗など頂いておりました。歌舞伎のタオルをお土産に頂き、縁とは、また不思議なもので、妻は、そのタオルを中武さんの店に表装を頼み、見事な額に仕上がりに、我が家に飾ってあります。妻との縁が人を繋ぎ、私もまた、こうしてロータリーの先輩の方々の皆様との出会いが、入会することによってこの場所になりました。この場所で新しい広がりのおふれあいが、新たな自分の生き方の出発点でもあります。入会を勧めてくれた同級生の武末君には心から感謝しております。

話は変わりますが、母が最後に、病院のベッドで息を引き取るとき、妻の手を握りながら「ア・リ・ガ・ト」声

☆幹事報告 〈文書案内〉

*平成30年度赤い羽根共同募
金街頭募金活動の協力依頼
期間 10月～12月

*西都ロータリークラブより
10月の例会案

幹事 橋口 清和 君



☆会員卓話

「暑さ寒さも彼岸まで」という通り、朝夕に涼しさが感じられるようになったこの季節、私の日課は、朝・晩仏壇に線香をあげて合掌することが習慣となっています。

しかし、最近、年のせいもあるのかも知れませんが、座っている時間が長くなって来ないように思われます。仏壇は一年中きれいなお花と果物やお菓子が供えてあり、先祖を大切にしてくれている妻に、当

青木 善明 君



にはなりませんでしたが、私たち家族にはそう伝わりました。涙、涙で最後の別れをしたとき、おふくろの人生は終わりを告げ、享年92歳の幕を閉じました。

皆様の中で、まだご両親がご健在の方は、できる限り会って会話をいっぱいしてあげてください。私は写真を見ながら、口数が少なかった母と、もっと沢山の言葉を交わし、話しかけてあげればよかったと、そのことが悔やまれてなりません。年老いていけばいくほど、たまにしか会えない親は元気にみえても内心は寂しいものだと思います。

私たち兄弟3人、生まれ育ち、結婚し、家庭を持ち、それぞれの人生を歩んでいます。近くに住みながら、ゆっくり話す機会も、日頃少ない弟と二人、仏壇の前で酒を交わし「兄貴々」と、飲みながら話す姿を「おふくろ、見てくれていますか」・・・俺たちも孫もでき「じいちゃん」「ばあちゃん」と呼ばれるようになりましたよ・・・。大正9年生まれで、大正・昭和・平成の時代を、平凡で地道に生きて来たあなたが教えてくれた人生の応援歌、それは私たちの教訓であり立派な母親としての姿でした。23年前に亡くなったおやじと二人で見守ってくれていますよね・・・線香の香りが和室に漂い・・・今日も人のご縁を大切に、必要とされ役に立つ人間でありますように「感謝」しながら毎日を精一杯生きています。「人生」は時計の振り子のように時を刻みながら、いい時もあれば、そうでない時も止まることなく動いています。そして、人や家族の歴史をつくりながら前へ前へと進んで行くものです。

このような私がロータリーに入会することができて、こうして多くの皆様と縁あって、出会えたことに人生の大きな喜びを感じています。毎週木曜日のお昼・・・仲間が集う、この場所に足を運べることの積み重ねは、目に見えない「心の栄養」であり、「奉仕の心」こそ「輝く希望の精神」だと思います。本日は有り難うございました。



会員卓話 平山英俊君

四つのテスト

言行はこれに照らしてから

- 1、真実かどうか
- 2、みんなに公平か
- 3、好意と友情を深めるか
- 4、みんなのためになるかどうか

■BOX披露 親睦活動委員 高橋 康朗 君

<ニコニコ・財団・米山BOX>

【坂田師通君】高鍋警察署長 木下幸一様ようこそ高鍋クラブへ。今日はよろしくお願ひします。

【岩切洋君】見た目は老けていますがまだまだ50代。誕生日祝いのお返しとして。いつもありがとうございます。

【藤本範行君】高鍋警察署の木下署長をお迎えして。本日は卓話を楽しみにしています。



■出席報告 出席委員 河原 好秋 君

出席報告 (9/20)

正会員総数	44名
出席会員数	29名
ホーム出席率	67.44%
修正出席率	79.07%

